

(仮称)南古河駅の設置

(仮称)南古河駅の設置



■現状
新駅は、古河駅から南に約3.2キロメートル地点の大堤南部土地区画整理事業地内への設置を想定しています。昨年度から地元説明会を8回行い、課題などの整理を行っています

- 新駅設置にかかる課題
・新駅の新規利用者を増やす必要がある
・建設費等は地元自治体が負担する
・土地区画整理事業による大堤南部地区を中心とする新たなまちづくりが必要

事業が実施可能か 検討中

筑西幹線道路の整備

筑西幹線道路の整備



新4号国道柳橋北交差点付近の様子

■路線の概要と整備状況
北関東自動車道桜川筑西ICと古河市を結ぶ広域幹線道路。現在、朝夕に発生している交通渋滞を解消するため、新4号国道柳橋北交差点の西側を拡幅工事しています。完成は令和3年度を予定しています

■道路整備による効果
新4号国道の東側を整備したことにより、古河名崎工業団地や造成中の仁連工業団地と圏央道等とのアクセスが向上

沿線に物流倉庫等の立地が進み 産業拠点 を補完する効果が生まれる

その他の教育機関

県立古河中等教育学校



■学校概要
県内で2番目の中等教育学校として平成25年に開校しました。現在、中学生から高校生までの6学年で712人が在学しており、そのうち約半数が市内の小学校から入学しています

■主な大学合格実績(平成30年度)
・東京大学、京都大学、北海道大学、東北大学、筑波大学を含む国公立大学に34人
・早稲田大学、慶応大学、明治大学、法政大学、立教大学を含む私立大学に280人

令和元年度から 医学 コースを創設

既設の高等教育機関

専門学校 晃陽学園・盈科学園



■学校概要
晃陽学園・盈科学園には約600人が在学し、そのうち約65%が県外出身者となっています。晃陽看護栄養専門学校では、今年の4月から助産学科・歯科衛生士学科・管理栄養士学科を新設しました

■市との取り組み
平成30年に「包括連携協力に関する協定」を締結し、看護学科や歯科衛生士学科、管理栄養士学科の実習を古河福祉の森会館や市立保育所で受け入れています

市との関わりを深め 関係人口増 に

高等教育機関の誘致

大学や高等専門学校、専門学校などの高等教育機関の誘致を、県などに要望しています。しかし、少子化に伴う定員確保等の課題から誘致は非常に難しい状況です。

市内では、高等教育機関として晃陽学園・盈科学園が平成5年から専門学校を運営しています。専門学校を卒業した後も古河市で働き、住み続けてもらえるよう、市と包括連携協力に関する協定を締結しました。その一環として、学科の実習を公共施設で受け入れ、市との関わりを深める取り組みを行っています。

そのほか、平成25年に県立古河中等教育学校が開校しました。同校は高等教育機関ではありませんが、高い学力・大学への進学率を誇り、地域での魅力向上に寄与しています。

筑西幹線道路の整備

筑西幹線道路は、古河と筑西・結城地区との連携強化や県央地域との交流を促進し、まちが発展する起爆剤になる路線です。

そのため、産業拠点の機能を補完する重要路線として早急に整備を進めてきたことで、古河名崎工業団地や仁連工業団地とのアクセス向上を図ることができました。

(仮称)南古河駅の設置

新駅設置については、平成29年度に実施した基礎調査により、駅舎の概算工事費の試算を行い約106億円となることが分かりました。請願駅を設置する場合は、原則として用地および建設の費用を地元自治体が全額負担することが条件となっています。

そのほかにも、土地区画整理事業と歩調を合わせて進めていく必要があるため、新たな駅に対する大きな期待や可能性と、整備に要する費用などの課題の検証をしっかりと行い、市民の皆さんに共有していく必要があります。

古河の未来を考えると

これら4つの先導的プロジェクトは、いずれもこれからの古河市のまちづくりを考える中でとても重要なものです。合併して13年が経過し、全ての目標は現時点で達成できていませんが、これらのプロジェクトを順次進行させていきます。

市民の皆さんにとって、古河市がこれからも住み続けたいと思えるまちとなるよう、1人でも多くの声を聴きながら「実現の可能性が高いもの」を選択し、できるものから優先的に実施していきたいと考えています。